

1回生 必修教科「技術」授業のシラバス

教科名	技術・家庭	科目名	技術分野	単位数	35	時間
科目の目標	(1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、施術と生活や社会、環境とのかかわりについて理解を深める。 (2) 生活や社会の中から技術に係る問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、施策等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 (3) より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。					
教科書	技術・家庭 技術分野(開隆堂) テクノロジーに希望をのせて		副教材	ハンドノートD 情報の技術		

1 学習の目標

情報の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、生活や社会・環境との関わりについて理解を深めるとともに生活や社会の中からこれらの技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決する力、より良い生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実にこれらの技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - 特にありません。
- (2) 授業について
 - 教科書、ハンドノートを使います。そのほかに、コンピュータを活用した実習を行います。
- (3) 復習について
 - 定期考査前に学習した内容を復習しましょう。

<学習アドバイス> ○定期考査、レポート提出などを行います。 ○定期考査は、授業中に板書した中身や、教科書やハンドノートから出題します。この他、簡単な実技試験や制作されたデジタル作品なども評価の対象となります。

3 評価について

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	ものづくりやエネルギー利用及び生物育成等に関する技術について基礎的な理解を図るとともに、関わる技能を身に付け、技術と生活・環境との関わりについて理解を深める。
②思考・判断・表現	生活と技術に関わる課題を見だし、解決策を構想し、実勢による具体化、評価改善を通して、課題を解決する力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、工夫・創造しようとする態度を養う。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1) 評価の観点」と対応する)

観点	評価材料	定期考査	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ノート	ワークシート	討議				
①知識・技能		◎			○				○	○					
②思考・判断・表現		○			◎	○	◎		○						
③主体的に学習に取り組む態度					◎	○	◎			○	○				

<担当者からのメッセージ> ○日常生活を発展させた、ネットワーク技術や情報の役割について考えましょう。 ○情報を正しく生活に生かすための方法を考え、進んで活用できるようにしましょう。 ○マイクロソフトオフィスのワード、エクセル、パワーポイントの基本操作ができるようになりましょう。

■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探求心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くしなやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心をもち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析して、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を整理・分析し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さと健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体をもち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画 ※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③

月	単元	学習内容	評価の観点	考査等	資質・能力
4	【座学】 オリエンテーション(1) <D 情報の技術> 【実技】 パソコンの基本(1)		【実技】 ③文書処理・表計算処理・プレゼンソフトウェアの機能を生かした表現をしている。 ①②ソフトウェアの機能を利用し、レイアウトや表現を工夫している。 ①文書処理・表計算処理・プレゼンソフトウェアの機能を理解している。 ②ソフトウェアの機能を利用し、レイアウトや表現を工夫して操作している。		AB AB
5	【実技】 ・ワードプロセッサソフトウェア(8)	【実技2】 「ワードプロセッサソフトを使ってみよう」ワード ・基本操作練習 ・文字入力練習(10分間) ・文書作成	①文書処理・表計算処理・プレゼンソフトウェアの基本的機能について、その効果や操作方法について理解している。 ②提示された課題例から発想を得て、自らの問題ととらえ直し、解決方法を工夫している。 ③これまでの学習の成果を生かし、それぞれの特性を組み合わせる工夫した情報を発信している。	実技テスト 速度及び文書作成 (ワープロ検定4級程度)	ABCD
6			①文書処理・表計算処理・プレゼンソフトウェアの基本的機能について、その効果や操作方法について理解している。 ②提示された課題例から発想を得て、自らの問題ととらえ直し、解決方法を工夫している。 ③これまでの学習の成果を生かし、それぞれの特性を組み合わせる工夫した情報を発信している。		
7			③自らの課題を解決するために、これまでの学習の成果を生かして、各種ソフトウェアの特性を組み合わせる活用している。		
8	【座学】 1-1生活や社会と情報の技術(1) 1-2情報とコンピュータ(1) *座学は実技と平行して行います。 *座学は10分程度で実習の前に行なうことがあります。	1 情報の技術 2 コンピュータの構成・機能・装置 3 コンピュータによる処理の仕組み 4 プログラムの構造と表現 5 情報のデジタル化	【座学】 ②情報の使いやすさやわかりやすさに関して工夫することができる。 ①情報の表現手段やコンテンツを理解することができる。 ③情報モラルの必要性、情報収集・発信に注意ができる。 ②知的財産を適切に利用する。	期末考査	ABCD
9	1 0 1 1 1 2	まとめ(1) 【実技3】 「表計算ソフトを使ってみよう」エクセル ・表計算ソフト基本 ・四則演算、関数 ・表計算シート作成	【座学】 ②目的に沿って適切な機器を選択することができる。 ①ソフトウェアの機能を理解している。 ①処理の流れや手順を理解している。 ①情報のデジタル化の仕組みを理解している。		ABCD ABCDEF
1	2-1双方向性のあるコンテンツによる問題解決(1) 2-2計測・制御による問題解決(1)	情報の表現 2 メディアを利用した情報の表現 3 情報通信ネットワークのしくみ 4 情報セキュリティ 5 情報モラル	①双方向性のあるコンテンツによる問題解決の手順を理解することができる。 ①②計測・制御による問題解決の手順を理解することができる。		ABCD
2		1 問題解決の流れ		期末考査	
3	【実技】 デジタル作品の設計と製作 ・プレゼンテーション用ソフトウェア(7)	【実技4】 「プレゼンテーションソフトを使ってみよう」 パワーポイント 課題(自分の興味のある事を紹介しよう) パワーポイントを使用し、スライドをつくってみよう ・プレゼンテーションソフト基本 ・作品作りの構想 ・資料集め ・配置構成、完成 ・発表、相互鑑賞	【実技】 ①③制作した作品の意図を理解し、発表することができる。 ③ルーブリックで確認した達成目標に照らし合わせ、自己評価することができる。また互いに評価し合うことができる。		